

これからの文化の家とフレンズ

広中省子さん × 水野美々子さん
文化の家館長 × フレンズ会長

新しい企画を一緒に作りましょう
まずは一歩ずつ



新館長誕生から一年近く経ちました。フレンズとの連携を今後どのように進めていくのか、課題や希望など、熱く語り合っていました。

文化の家にはフレンズがある

水野 さっそくですが、新館長になられていかがですか。

広中 最初はいろいろ戸惑いでしたが、今は、お役所ならではのシステムにも慣れました。

水野 普段、館長室にはいらっやらないんですか？

広中 ここにいたらみんなが何をしているか全然わからないので、下(一階の事務室)にいます。また、フットワークを軽くして、いろいろな人と出会うことが大切なので、ここにもついでにはダメだと思っうんです。

水野 館長になられてから、フレンズの活動の見方は変わりましたか？

広中 すこいなと思ったのはホルボランティアに関してです。目に見えない努力を20年重ねてこられたので、接遇などに高い質が保たれているんですね。細やかな声掛けなどがあり、とても柔らかか

くて温かい雰囲気を感じます。
水野 ありがとうございます。「文化の家にはフレンズがある」と言われるような、そんな活動をしていきたいと、いつも思っています。



水野 ところでフレンズの会員ですが、企画によって会員の数がすこく変わりますね。フレンズの企画じゃなくて、文化の家の企画のことですが…。

広中 ここは特に「芸術のまちアイデンティティの確立」というのが、開館以来「文化芸術マスタープラン」できちっとつたわれているので、ある意味「どこでも観られるものはやらない、名古屋に行つて観られるものなら、そちらに行つて下さい」というふうでやってきたんです、脈々と、私の前から。

皆さんが文化の家に足を運んでくれる企画を

水野 それもありフレンズは文化の家が企画しないようなものをと考えながら、また幅広く皆さんが文化の家に足を運んでいただくことが会員の増加にもつながると頑張っています。本当は文化の家の企画にかかっているんですがね。

広中 高齢者が出かけてくれるような企画をしたいですね。特に家にいる男性に来てほしいです。難しい作品ではなく、来ていただいていたかと思えば、文化の家も身近に感じて、ほかに目を向けることにつながるのではと思います。

フレンズの名前で混同も

広中 会員はどういった企画のときに増えているのでしょうか。

水野 どういうときにチケットが売れたかは、文化の家のデータを見ていただけたらと思います。名前が同じだと混同しやすいのですが、フレンズ会員イコールフレンズスタッフではなく、会員からボランティアスタッフを募集して組織を作り、それぞれの役割ごとに作った部会で活動をしています。フレンズの企画は事業部が担当していますが、文化の家の企画には携わっていないです。

広中 そういった仕組みをしっかり理解しないといけないですね。マスタープランを作るときに言われたのは、質の高いものを作ってほしいということでした。市民で検討会議をやっていますが、そこでの意見も反映させて市民に支持される企画を考えていきたいと思っています。

全国でも珍しい

可変型ホール

広中 ところで、このホールは全

国でも珍しい「可変型ホール」なんです。市民にあまり知られてないようです。もっと周知に努め、誇りに思っていたきたいです。

水野 バックヤード見学会も行われているので、実際に見に来てほしいです。それから前からお願しているのですが、小学生が「町探検」でここに来るときなど折々の機会を利用して、子どもたちに公演を見る時の基本的なマナーも教えてほしいんです。

広中 それは言ったほうがいいですね。ぜひ実行します。

まず一歩踏み出して



広中 たくさんのお客様に喜んでいただけるよう、文化の家とスタッフが話し合って、新しい協働の関係をつくる仕組みを考えていきたいです。

水野 過去にうまくいかなかったこともありました。改善する点など、館長とフレンズの事業部とが話し合う機会を作っていきましょう。

広中 まず一歩踏み出して、少しずつ進んでいきたいですね。
水野 よろしくお願ひします。

★ クリスマスコンサート開かれる ★



魅力的な歌声が響き渡る

12月2日、文化の家舞踊室でフレンズ企画「久保田陽子ジャズパニーズクリスマスコンサート」が開催されました。久保田さんはファンが多く、うれしいことにチケットは早々に完売しました。

コンサートは日本の唱歌、童謡、美空ひばりさんなどの曲の合間に、伴奏の木須康一さんがクリスマスソングをしのばせるなど編曲も楽しく、久保田さんもほとんど休みなく、次々とさまざまなジャンルの歌を歌い続けました。特に「トロイカ」では日本語の歌詞とは全く違う原曲の歌詞で、感情たっぷり

歌い上げ、「ブラボー」の声もあがりました。

大勢の観客を圧倒的な歌唱力で魅了したコンサートの終了後は、出演者も交えたティーパーティが和やかな雰囲気で開催されました。

お客様の声

● 初めての参加です。すばらしかったー感動をありがとうございました。

● 久保田さんが歌うと、知っている曲が違う曲のように聴こえてすてきでした。

● チケットを手に入れるのに苦労しました。苦労の代りが有り、来られて良かったです。



抽選で花のプレゼントも

フレンズ会員募集

31年度フレンズ会員の入会及び更新は、文化の家の1階受付で手続きができます。

会費	個人会員	1,500円
	家族会員	1,000円
	法人・グループ会員	15,000円

* 公演チケットの割引、先行発売など特典があります。詳細については文化の家までお問い合わせください。

* 更新手続きは3/1より随時受け付けします。

フレンズスタッフ募集

公演のお手伝いをしてみませんか。チケットのもぎり、パンフレットの配布、会場案内などホール活動が中心です。詳細については文化の家まで。

フレンズ第21回総会のお知らせ

2019年4月6日(土)
10時30分から 光のホール



ジャズってイイな！

難しくない♪ジャズの聴き方楽しみ方♪

岡崎市図書館交流プラザ（りぶら）

三浦健仁

【ジャズの演奏形態】

ジャズはもともとポピュラー音楽の一つ。楽しむことは難しくありません。独奏から大編成のビッグバンドまで、さまざまな演奏形態がありますが、ここではトランペットかサクソフ奏者が主役としてステージ正面（フロント）に立ち、ピアノ、ベース、ドラムがリズム隊としてバックを務めるカルテットの演奏を例に説明してみます。

軽い前奏のあと、まずはテーマ（ポップスでいうと歌詞の一番）を全員で合奏します。ここで曲の全体像が示されます。そのあと、テーマと同じコード進行でフロントの奏者がソロ演奏を始め、他のメンバーは引立て役に回ります。いかにカッコいいアドリブを聴かせるかがソロの見どころ。聴きどころで、盛り上がると長くなったりしますが、最後はテーマの終わりと同じコードに戻ります。

フロントのソロ演奏が終わると、次はリズム隊のソロが、ピアノ、ベース、ドラムの順に続きます。ベースソロのときは、音がよく

く聴こえるように、他のメンバーが演奏を休止することもあります。ドラムはメロディというより、盛り上げ役として比較的派手なリズムを展開します。ライブハウスで曲の合間に客席から拍手が送られることがあります。それはソロが終わるたびに演奏者をねぎらっている、いい演奏と思えば拍手喝采も大きくなります。こうして各パートのソロが終わると再びテーマに戻り、全員合奏して終わります。どうでしょう、意外と単純ではありませんか。

【他の音楽との違い】

ただし大事なポイントは、「即興演奏」であること。各演奏者はグルーブのリーダーからテーマだけを譜面などで事前に知らされるくらいで、その

譜面もコードが書いてあるだけだったりします。リーダーの方針やライブの趣旨にもよりますが、少々のポイント以外は細かいことを決めずに演奏していきます。ステージ上で次の曲を決めたり、目線で合図を送ってソロの順番を回したり、ノってくと演奏が長々と続いたり…この即興性がジャズと他の音楽との決定的な違いです。二度と同じ演奏はない、一期一会の音楽なのです。

【アクセントは？】

もうひとつのポイントは、4拍子のうち、2拍目と4拍目にアクセントをつけることです。ここで手拍子を入れると、いわゆるノリがよくなります。私たちは日常、1拍目と3拍目にアクセントをつけるのに慣れていますが、そこに手拍子を入れると、どんな格好いい演奏もジャズっぽくなくなってしまうのでご注意ください！（笑）

ともあれ、ジャズの醍醐味はなんととってもライブに尽きます。2月22日の「JAZZ 長久手」ぜひお越しくださいね！

「ドクタージャズ」と内田修さん(1929～2016)をご存知でしょうか？

岡崎市出身の内田さんは、渡辺貞夫さんをはじめ、日本を代表するジャズ・ミュージシャンを長年にわたり支援してきた外科医です。日本のジャズを育てたと言っても過言ではありません。晩年を長久手市で過ごされた内田さんは、岡崎市にご自身のジャズ資料を寄贈されており、その一端は岡崎市図書館交流プラザ（りぶら）で見ることができます。

2月2日文化の家イベント、レクチャー「さあ、ジャズを聴こう！」では内田修ジャズコレクションから、国内でも貴重な数々のレコード音源が解説とともに体験できます。お楽しみに！



おすすめ公演!

文化の家 岡田百合香さんのチェックポイント!

2019年2月22日(金) 18:30開場/19:00開演
会場:風のホール 全席自由 ※未就学児入場不可

JAZZ 長久手

~やっぱりジャズはイイ!

出演: 本田珠也(ドラム)
守屋美由貴(アルトサクソ)
須川崇志(ベース)



ゲスト: 板橋文夫(ピアノ)
峰厚介(テナーサクソ)



毎年恒例のジャズ企画! ホンモノを体感するスペシャルな一夜です。

今回出演するのは、生粋の音楽家系に生まれた本田珠也。父に本田竹曠(ジャズピアノ)、母にチコ本田(ジャズヴォーカル)、叔父に渡辺貞夫(アルトサクソ)を持つ正真正銘JAZZの申し子です。アグレッシブでパワフル且つ感性豊かなプレイは必聴。また、ジャズだけでなく様々なジャンルをこなす幅の広さも、ファンを魅了しています。

今回は、本田珠也トリオ+2=スペシャルクインテット(仮)と題し、守谷美由貴、須川崇志とのトリオに加えて、板橋文夫、峰厚介をゲストに迎えます。「これぞジャズ!」という本格的なライブにどっぷり浸り、魂の音に酔いしれるひとときをお届けします。

◆ 関連イベント

レクチャー「さあ、ジャズを聴こう!」
2019年2月2日(土) 14:00 光のホール
※内田修ジャズコレクションから貴重な数々のレコード音源が解説とともに体験できます。



石川貴憲

サクソフォンリサイタル

2019年2月27日(水)
18:30開場/19:00開演
会場 風のホール

出演:石川貴憲(サクソフォン) / 丸尾祐嗣(ピアノ)

文化の家「創造スタッフ」として活動して4年が経ち、さまざまな場面に関わって行く中で、「音楽を用いて社会を良くしていく仕組み」と、「自分自身がその場でどのように在れるか」ということのどちらにも興味を持つようになりました。

これからは福祉の分野に積極的に関わっていきたくて考えていて、少しずつですが行動を起こしています。

4年間の締めくくりとして、リサイタルを開催します。自分自身が変化していく中、今でこそ出来ることもあると感じているので、精一杯演奏を楽しみたいと思っています!

演奏するのは僕が心から魅力を感じているクラシック音楽の数々です。

クラシカル・サクソフォンというものを通して、僕自身が思い描く作曲家たちの魂を感じていただけたらと思います。

ひとりごと

季節が変わり、機関紙冬号タイトルは春をイメージさせるピンク色になりました。

ピンク色に囲まれて生活すると心身がほぐされ、若さに意識が向くので美容効果がある? そうです。

2019年はピンクで心も身体も若くなりたいな!(笑) (さ)



冬も健康第一で!

ほっとすべーす

長久手市在住 I

小学生の息子は1年ほど前から体操と水泳を習っているのですが、そこには大人用のスポーツクラブもありません。自分の運動不足を薄々気づいてはいたものの、「スポーツクラブは高額で、面倒で、通う自信がない」と思ってしまった、とても遠い存在でした。しかし、ある日「スタジオでホットヨガを始めます」という貼り紙を目にし、体験してみました。すると、じわっとゆっくりと汗がでてきて、心も身体もほぐれて、その日はぐっすり深く

眠れました。驚くほどリラックスできたのです。これを機に、そのスポーツクラブに入会することにしました。週に2回のホットヨガのほか、ランニングマシンや様々な機具も使えるので有酸素運動や筋肉強化も始めました。息子が体操と水泳をしている待ち時間に、私も同じ建物でトレーニングできるので、時間も有効に使えます。この寒い季節も運動を続けて、健康第一で冬を乗り越えたいと思います。